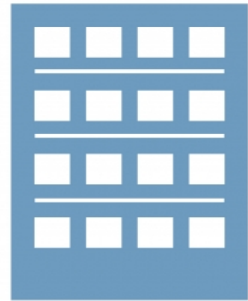


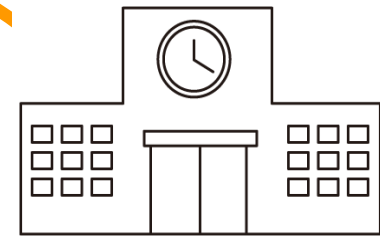
企業・学校が「協働」して つくる授業のあり方

NPO法人JAE 理事／教育コーディネーター
塩見 優子（しおみ ゆうこ）



企業

**学校と企業（地域）を
つなぐ橋渡し役**



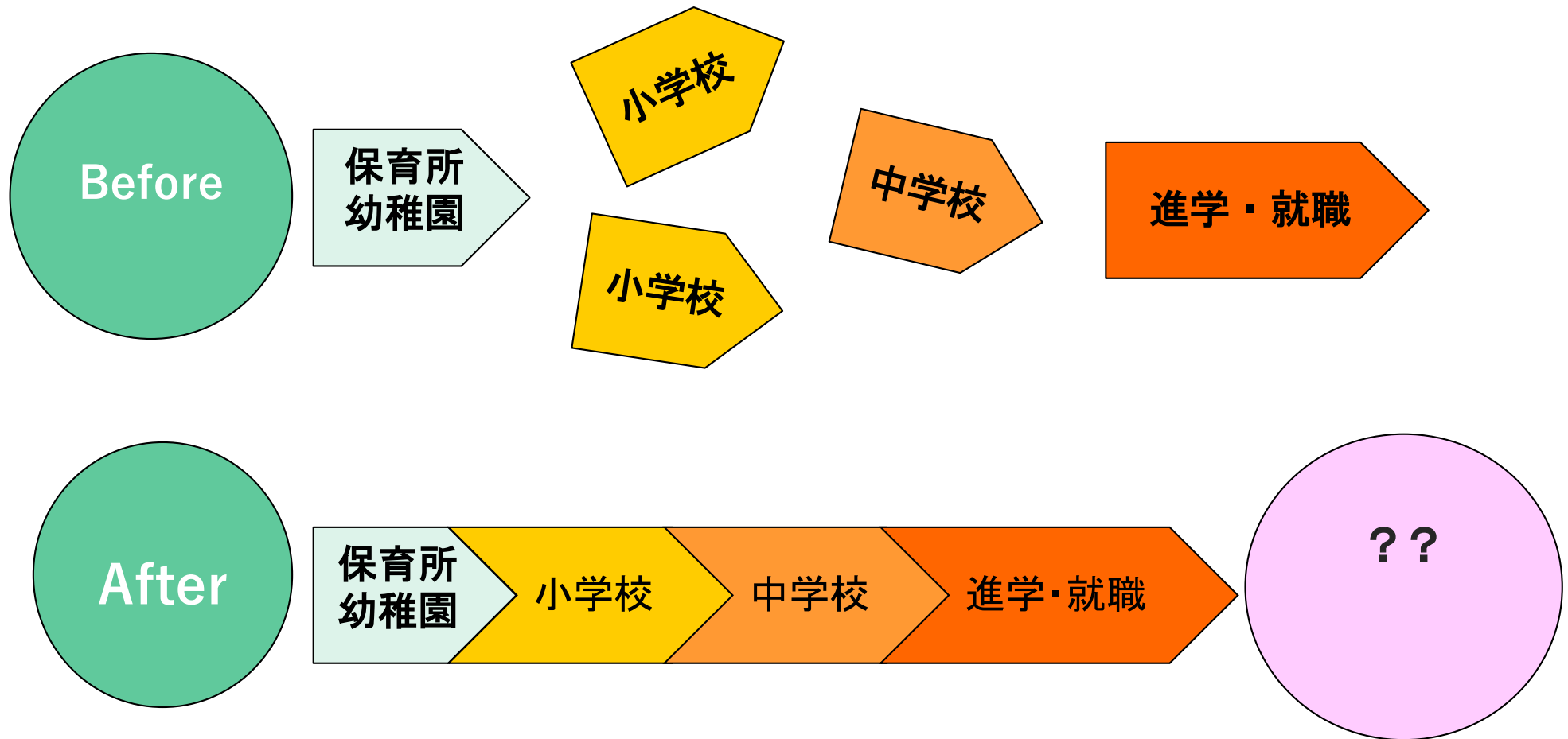
学校

- ・ 小中学校カリキュラムマネジメント支援
- ・ 教職員研修講師
- ・ 企業向け社員研修講師
- ・ 小中高校、大学生向け課題解決型プログラム
- ・ 地域のキャリア教育推進アドバイザー

①事例： 地域密着型プログラム （保幼小中学校連携）

② 連携のポイント

子どもに生きる力を。



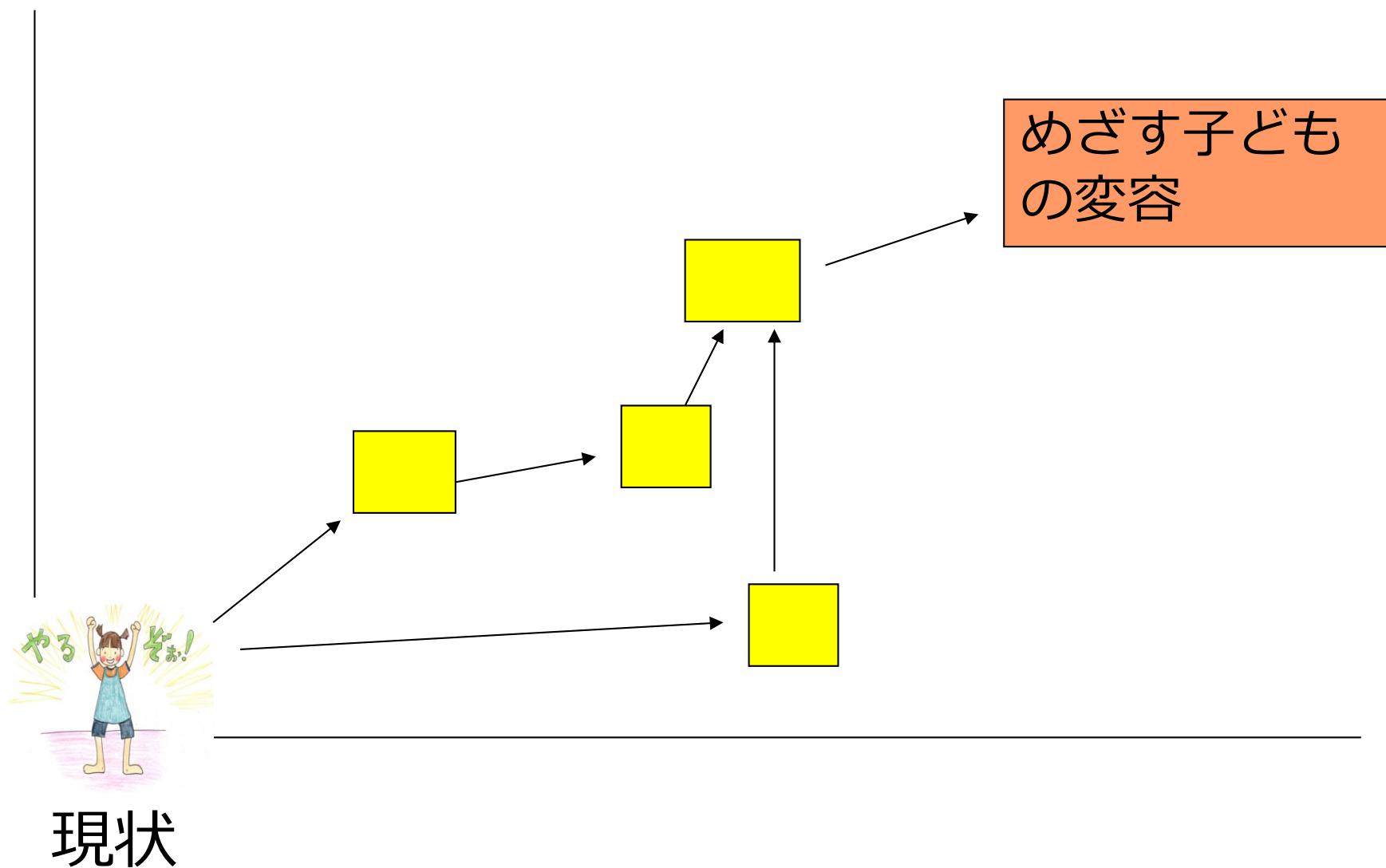


「つくりつづけよう！自分の生き方」



めざすハタチ像

実現するための具体的なステップ



子どもたちにつけたい力



つながる

つづける

まなぶ

きめる

かんじる

みつめる

■ 先生の声より ■



自分の生き方を限定している子がいる。
親の姿の中でしか生き方を作れない子がいる。
自分の将来を自分で決められない子がいる。

その子がくらくらいついていくには、出会いによって人生観を変えることが必要。「私はこういう風に生きてきたよ」と語ってくれるような出会いをつくる。

また、友だちに伝える、仲間に話すことによって言ったことを生き方に変えていく取り組みが必要。

ドリカールスワール®

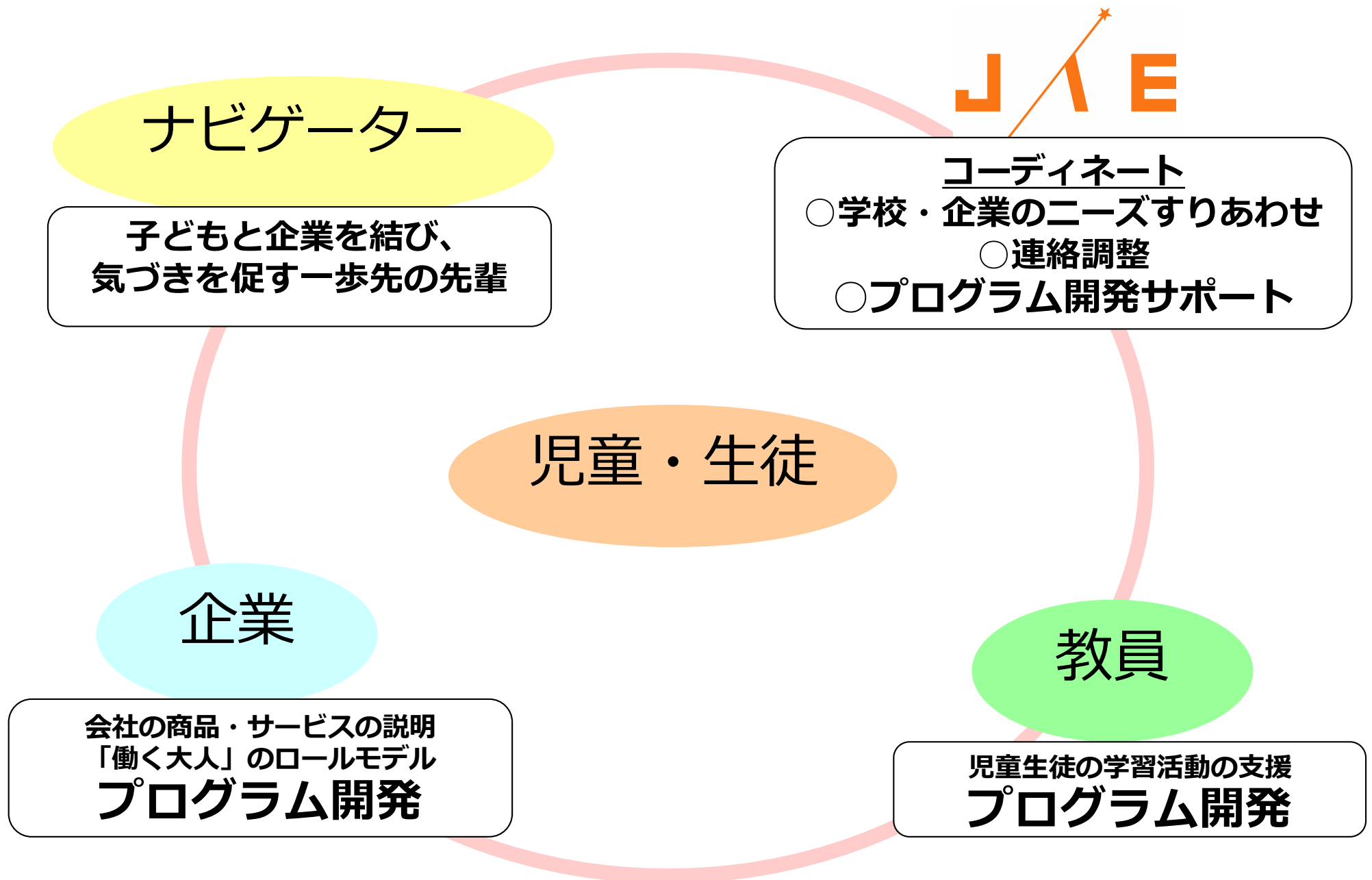
～「生きる」「働く」「学ぶ」がつながる社会を～

- ① 中学校区の企業さんとの取り組みを通して、働くことの楽しさ・やりがい（挑戦）を伝え、子どもたちの将来への展望を広げる
- ② 企業から出されたミッションに対してチームで活動する事で、仲間と協力する力を育む
- ③ 社会で活躍する大人との交流を通じて、生き方・夢・目標を見つめ、一歩踏み出すきっかけにする

- ・ 企業と連携しながら、
企業の「課題」を子どもたちがチームで解決（提案）する
 - ・ 社会人や学生との関わりを通して、社会を自分事として捉え、夢や目標に向かって一歩踏み出す力を育む
-
- 総合学習の時間を中心に教科と連携しながら実施
 - 2学期の「労働」「仕事」等を扱う時期に活用
（10月～12月）→ 3学期の進路学習等につなぐ



■ 協働体制



ドリカムスクールの流れ



ミッション発表！

社員さんの働く姿を見る！

社員さんに
中間報告！

プレゼン！

学んだ事をふりかえる

地域との協働を通して…



- ・ 地域、まちが近くなる
- ・ 地域の大人、親が近くなる
- ・ ここで育つ「将来」が近くなる
- ・ 校区が近くなる
- ・ いろんな生き方がある
- ・ 企画体験、課題解決

→→自分の生き方に「重ねる」

学校



「実際の企業で働く大人と接する機会は貴重な体験になりました」



「普段は褒められる機会の少ない子が、企業の方に褒められたことをきっかけに、様子が変わり積極的になりました」



「グループワークを通じて人と協力する楽しさが実感できました」

企業



「子どもたちの新鮮なアイデアや吸収力に脱帽しました」



「自分の仕事の話をしてしながら自分自身の棚卸になりました」



「充実した時間でした。またぜひ参加し、他の社員にも勧めたい」

①事例：
地域密着型プログラム
（保幼小中学校連携）

② 連携のポイント

「意図的に成長場面をつくりだす」

「社会に出たときに困らないように」

「自立・協調して生きていけるように」

教育内容を、**子どもたちの**

将来を見通した視点で、見つめ**仕掛ける**

STEP1:ねらいを明確にする

J/E



①子どもの
様子

②どんな人にな
って欲しい？

③どんな経験があ
ればそうなれる？

■ねらいは具体的に！



抽象的な目標設定の場合：

- ・その取組みで何をめざすのかが見えづらい
 - どの程度まで育てたいのかわからない
 - どれくらいいついたのかわからない
 - 子ども自身も・・・
- テストの点数のみの評価基準。。
- 成長したのかわからない。

■STEP2：役割分担を考える



- ・先生がリード！めあてを握り続ける。

→現場を知っている、子どもを知っているのは先生

- ・企業さんは「外部人材」

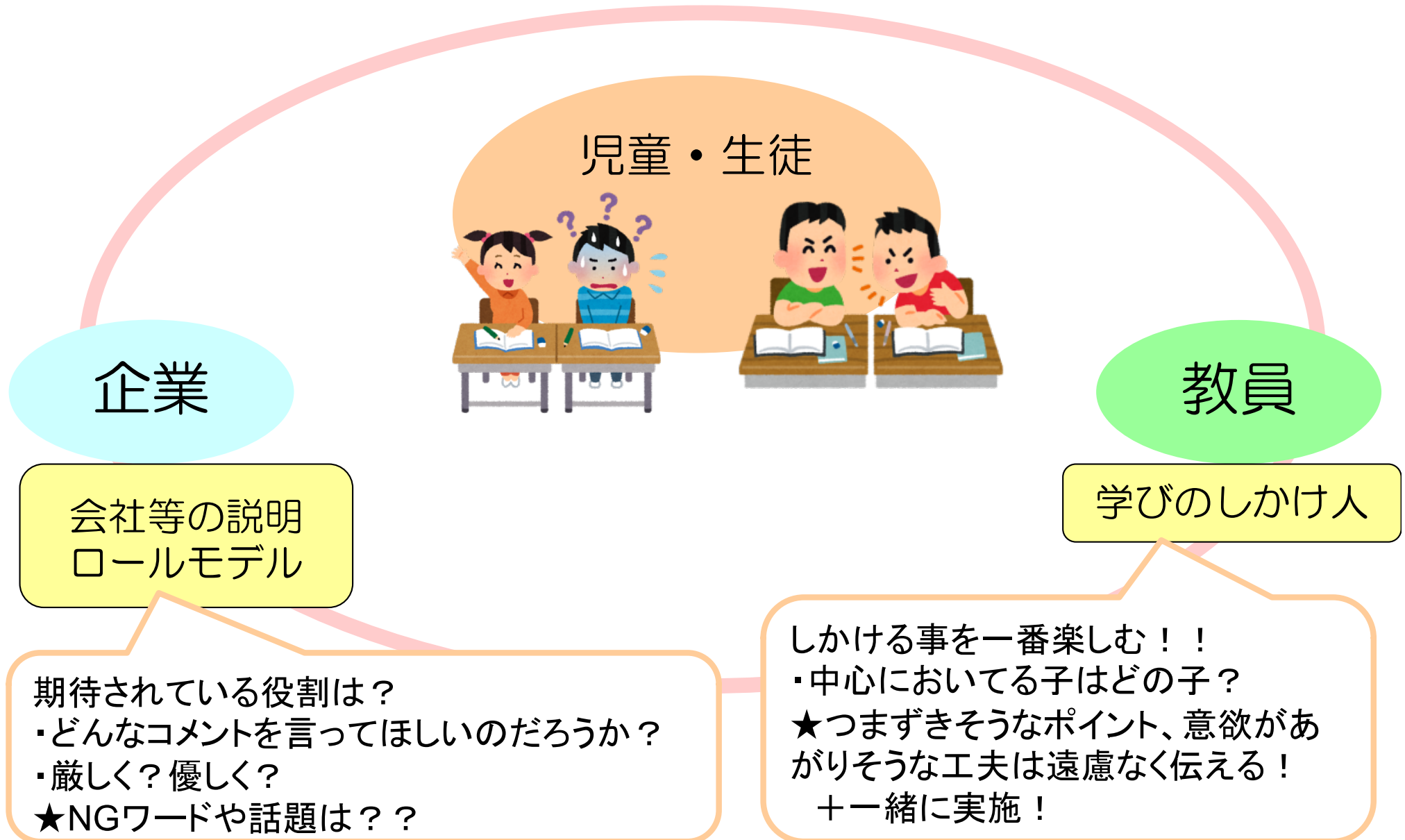
うまく活用！遠慮しない！

→配慮からくる「来てもらうだけで大丈夫です！」「負担ない分だけでいいので…」

は**負担に繋がる**

→企業さんを立てる、感謝をお伝えする

プログラム内での役割を明確に「協働」



協働を「やりがい」につなげる



「負担感」

- 会社紹介の準備
- 時間調整、体制整備
- 社内共有
- 仕事の調整



「メリット感」

- 会社の認知度があがる
- 帰属意識アップ！
- 自己肯定感アップ
- 「ありがとう」体験
- 出会い



やりがい

- ・今後も進めたい！
- ・次はもっとこんな事
できないのかな？？

→→**協働**

■ 企業さんに伝える事

- ・ 目的や役割、子どもの状態を再確認（しつこくて良い！）→その分、終わったときに大感謝を！
- ・ 促し方のコツや、「こちらも促しますので」等のサポート体制
- ・ 「子どもたちも楽しみにしています！」来てよかった感

■ 子ども

- ・ 先生は企業さんと接するモデルになる

■ 学校・先生方

- ・ 校長へご紹介、ご挨拶の機会を

STEP3 : 思いっきり味わう。楽しむ！



学校体制



先生自身が楽しむ！本気になる！

⇒ 先生の姿が取組みのロールモデルそのもの



管理職に甘える／見守って頂く

⇒ 先生方が思いっきり頑張れる裏には管理職のサポートが

⇒ 管理職を通して学校全体への共有を



体制そのものが成長のチャンスに

⇒ あえて若手の先生を窓口にする、設計時はベテランの先生をつけるなど、学校内プロジェクトとして活用できる

おまけ：工夫アイデア



- ・ 子どもから直接「ありがとう」を伝える演出
 - サプライズでコール、歌、手紙など
 - 担当社員さんが達成感を味わう
- ・ 給食を食べるなど、学校ならではの非日常体験を！
- ・ 学校から企業さんへ感謝状
- ・ 学級通信、学校のHP→発信！認知度アップは魅力的
 - ※ 企業名はどんどん出しましょう。
- ・ 授業を保護者参観に
- ・ 事後：子どもたちの感想文を共有する